

# 双葉町・浪江町で 内部被ばく線量測定・見学会を開催しました

## 概要

目的：東日本大震災・原子力災害伝承館、震災遺構浪江町立請戸小学校の見学、内部被ばく線量測定を通じて、震災から学ぶ教訓、福島第一原子力発電所事故の概要や放射線の健康影響等について理解を深める。

開催日時：令和6年3月2日（土）9：30～15：00

開催場所：東日本大震災・原子力災害伝承館、震災遺構・浪江町立請戸小学校

参加者：浪江町に営業所がある会社の職員と家族 11名

講師：松原 昌平（原子力安全研究協会）

開催内容：東日本大震災・原子力災害伝承館では、展示見学を通じて、原子力災害の記録や震災発生当時の状況等について学び、震災遺構・浪江町立請戸小学校では、津波による被害や避難等について学んだ。内部被ばく線量測定では、体内に取り込まれた放射性物質の量を体外から測定する装置を使い内部被ばく線量の測定を行った。最後に、印象に残ったこと、新しい発見等について意見交換を行うとともに、放射線に関する質疑応答を行った。

## 主な意見交換

- Q. 基準値を超過しているキノコを食べると一時的にセシウムが検出されると思うがどれくらいの時間が経つと体の外に排出されるのか。
- A. 大人の場合、体の中に入ったセシウムは排出されることで3カ月で半分になり1年でほとんどなくなる。子供の場合、大人よりも代謝が早いため体の外に排出されるのも早い。しかし、地面に付いたセシウムについては半分になるまで30年かかる。
- Q. 日本人はX線やCT検査をたくさんするため被ばく量が多いと思うが年間で何回まで受けていいという制限はあるのか。
- A. 被ばくするよりも病気を見つけることを優先するため基本的に制限はない。
- Q. ダムや湖にも放射性物質が沈んでいると思うがどうすることもできないのか。
- A. 底に付いている土を剥ぎ取るしかない。剥ぎ取ることができない場所に関してはそのままにすることしかできない。

## アンケートより

- ・放射線について具体的に説明していただき大変参考になった。家族や孫にも伝えて一緒に見学に来たいと思う。
- ・地震の怖さ、原発の怖さ、家族の大切さ、人との助け合いの大切さを感じることができた。

